

冬の気温が高くても栽培可能で品質優良な モモ品種「さくひめ」

【はじめに】

モモなどの落葉果樹が春に正常に開花するためには、冬にある程度の低温に遭遇することが必要になります。日本のモモ主要品種では7.2℃以下の低温が必要で、必要な時間（低温要求時間）は1,000～1,200時間程度です（表1）。今後、温暖化が進行し、冬の気温が高くなると、休眠から覚醒するために必要な低温要求時間が不足し、モモの露地栽培が困難となる地域が増加するおそれがあります。

一方、海外には亜熱帯地域でも栽培できる、低温要求時間が短いモモ品種が存在していますが、日本の主要なモモ品種に比べると果実品質が大きく劣ります。

そこで農研機構では、海外の低温要求時間が短いモモ品種を交雑親として利用し、日本の主要品種よりも低温要求時間が短く、かつ果実品質に優れた早生のモモ品種「さくひめ」を育成しました（図1）。

【育成経過】

ブラジルから導入した低温要求時間の短い品種「Coral」と、日本国内で育成された果実品質に優れる早生品種「ちよひめ」などとの交雑を1994年に行いました。交雑で得られた個体について特性を調査して、その中から選抜した個体を用いて交雑を進めました。低温要求時間については、開花期の早晚性から評価できることを見出し、この指標を選抜に活用しました。2003年に実施した交雑から得られた第3世代の個体の中から「さくひめ」を選抜しました。2018年3月9日に品種登録されました（登録番号第26635号）。

【「さくひめ」の特性】

低温要求時間は555時間程度で、日本の主要品種の約半分です（表1）。温暖化により冬の気温が上昇しても、安定した開花が見込めます（図2）。開花盛期は早生の主要品種の「日川白鳳」より9日程度早くなります。収穫盛期も「日川白鳳」より5日程度早くなります（表2）。

果実の大きさは「日川白鳳」と同程度です。「日川白鳳」に比べて成熟期の果皮の地色に緑色が残りがやすく、赤く着色する部分は「日川白鳳」と同等かやや少なくなります（表2）。

果肉色は白色です。果汁の糖度は12～13%前後で「日川白鳳」と同程度です。酸味はpH4.6程度と少なく、食味良好です（表2）。早生品種で多くみられる核割れが少ないです。

開花が早いと、晩霜害を受けるリスクが他の品種よりも高い可能性があります。果皮の果点や裂果が「日川白鳳」よりも多く発生する年があります。果実袋をかけることで発生を抑制できます。

表1 「さくひめ」および主要品種の低温要求量の
平均値
(切り枝法、2012～2015年、つくば市)

品 種	低温要求時間(時間)
さくひめ	555
日川白鳳	1173
あかつき	1176
川中島白桃	1208



図1 「さくひめ」の果実



図2 加温した鉢植え「さくひめ」
左：「さくひめ」、右：「日川白鳳」
2016年12月26日加温開始 2017年1月18日撮影

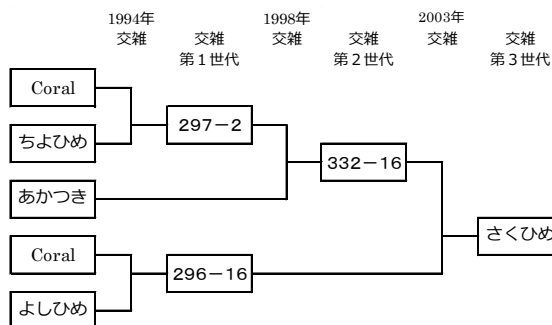


図3 「さくひめ」の系統図

表2 育成地(農研機構・つくば研究拠点)における2013～2015年の
無袋栽培での特性

品種	開花 盛期	収穫 盛期	果実重 (g)	果皮の 地色	果皮の 着色	果肉色	糖度 (%)	酸度 (pH)
さくひめ	3/27	6/26	253	緑白	やや多	白	12.8	4.62
日川白鳳	4/5	7/1	250	緑白 ～白	多	白	12.2	4.34